

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1572400172
法人名	医療法人社団 萌気会
事業所名	萌気園グループホーム ふきのとう
所在地	新潟県南魚沼市浦佐334 - 3 (電話) 025 - 780 - 4888
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 6月 12日

【情報提供票より】(20年 5月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8人
職員数	8人 常勤 5人、非常勤 3人、常勤換算 7.54人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階 建ての 1階 ~ 2階 部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり	1,120	円	

(4) 利用者の概要 (20年 5月現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	2名	要介護4		2名	
要介護5	2名	要支援2		0名	
年齢	平均 89.4歳	最低	79歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萌気園診療所
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは浦佐駅からすぐのところであり、大きな民家を改修した建物は近隣の風景に違和感なく溶け込んでいる。入口に置かれたプランターには季節の花が咲き、また、玄関の軒先にはツバメが巣を作り、巣立ちの頃を迎えており、豊かな自然と季節感を感じられる環境である。
内装は民家の造りをそのまま活かしており、古くから使われていた食器棚や玄関前の飾り棚が居心地のよい雰囲気を作り出している。居間や居室の敷居の段差や2階への階段などもそのまま残されているが、利用者はごく自然に支障なく生活している。日中は、ほとんどの利用者が居間に集まり賑やかに話しながら、生き生きと野菜の下ごしらえなどの作業をしていた。
平成19年度までの2年間は地域交流を目標とし、外出を多く実施したり、地域の敬老会に参加するなど、地域の方々との交流に努めてきた。平成20年度はその実績をふまえ、「一人ひとり、いきいきと過ごす。利用者も職員も」という目標を掲げ、具体策を検討している。
同一法人内の診療所や訪問看護事業所との協力体制が確立しており、往診もいつでも受けられ、利用者・職員の安心につながっている。この体制を活かして開設当初から看取りケアにも取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は職員間で共有し、具体的な改善につなげた。「介護計画の見直し」は、毎月モニタリングを実施・記録し、基本的には6ヶ月ごと、状態が変わったときには随時変更されている。「口腔ケア」は、朝夜だけでなく、昼食後も一人ずつ声かけや誘導をし、利用者全員が実施できるよう支援している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回初めて全職員に評価票を配布し、職員一人ひとりがほぼ全項目で自己評価を実施した。その結果を、管理者がホームの自己評価としてまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、町内会長や民生委員、行政関係者等が参加して開催している。近隣住民の方も4名参加しており、ホームに対する地域の理解が深まっていることが伺える。委員宅を訪問して会議の案内文書を手渡しし、参加をお願いしており、また、あらかじめ予定を伝えてあるので欠席はほとんどない。会議では前回の外部評価の報告や防災対策などについても話し合っている。市とは、行政主催の会議等で定期的に連絡を取ったり、入居状況の情報共有など、密に連絡をとっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	何でも言ってもらえる雰囲気を作れるよう、家族の面会時には職員が生活の様子を個別に話したり、気候の良い時期は、ドライブがてらお便りを同封した請求書を利用者と一緒に自宅に届けに行くなど、できるだけ家族の意見を伺う機会を持つよう努めている。苦情受付のポストも設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設後から町内会の一員として回覧板をまわしてもらったり、お祭や防災訓練等の地域行事に参加していたが、平成18年度・19年度は地域交流を目標としてさらに重点的に取り組んだ。その結果、近隣住民の理解が深まり、散歩の時に声をかけてもらったり、野菜のおすそ分けを頂くなど日常的な交流の機会が増えた。また、民謡やオカリナの演奏、そばうちや読み聞かせなど、多様なボランティアの訪問も多い。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をふまえて、平成12年の開設当初からホーム独自の理念がつけられている。毎年職員全員で理念を確認して共有し、理念に基づいた年間目標を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念の実現について職員全員で話し合い、その年の目標を掲げて実践している。平成18年度・19年度は目標を「地域交流」とし、実践してきた。平成20年度の目標は「一人ひとりいきいきと過ごす。利用者も職員も」とし、利用者だけでなく職員も一緒に生き生きと生活することに取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	散歩や外出の際に、地域の方と気軽に声をかけあったり、野菜のおすそわけやお茶飲みなどで日常的に交流し理解を深めていく中で、理念や方針が地域に伝わっている。家族には、面会時に居間で一緒にお茶を飲みながら、ホームの方針や日々の活動の様子を伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後から町内会の一員として回覧板をまわしてもらったり、お祭や防災訓練等の地域行事に参加していたが、平成18年度・19年度は地域交流を目標としてさらに重点的に取り組んだ。その結果、近隣住民の理解が深まり、散歩の時に声をかけてもらったり、野菜のおすそ分けを頂くなど日常的な交流の機会が増えた。また、民謡やおカリナの演奏、そばうちや読み聞かせなど、多様なボランティアの訪問も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて全職員に評価票を配布し、職員一人ひとりがほぼ全項目で自己評価を実施した。その結果を、管理者がホームの自己評価としてまとめた。前回の外部評価は運営推進会議で報告すると共に職員間で共有し、具体的な改善につなげた。		職員全員がそれぞれ自己評価を行ない、職員一人ひとりが日々のケアを振り返る機会になったことは大変意義深いことである。今後は、評価の内容や結果について話し合う機会を設けより具体的に検討したり気付きを出し合うなどして、評価結果をサービスの向上に反映するさらなる取り組みが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、町内会長や民生委員、行政関係者等が参加して開催している。近隣住民の方も4名参加しており、ホームに対する地域の理解が深まっていることが伺える。委員宅を訪問して会議の案内文書を手渡しし、参加をお願いしており、また、あらかじめ予定を伝えてあるので欠席はほとんどない。会議では、前回の外部評価の報告や防災対策などについても話し合っている。		地域の中でホームに対する理解が深まってきたことをふまえて、今後更に運営について提案や意見を引き出せるよう、具体的に外部評価の項目について検討するなど、さらなる工夫が期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催するサービス調整会議や地域密着サービス会議等で定期的に市の担当者と話し合う機会がある。また、市からホームの空き情報の問合せなどあり、情報の共有に努めている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政主催の虐待防止研修会をはじめ、法人の研修会に参加して理解を深めている。参加できない職員には伝達講習をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時には職員が生活の様子を話したり、気候の良い時季は、ドライブがてらお便りを同封した請求書を利用者と一緒に自宅に届けに行くなどし、利用者一人ひとりの様子を家族に伝えている。体調の変化などは随時電話で連絡している。法人で月1回発行している広報誌にホームの様子についても記事を載せている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の思いや意向を引き出せるよう、家族の面会時を利用したり、自宅に訪問するなどして、できるだけ家族と話をする機会をもっている。また、家族の面会時は、生活の様子を見ていただくために居間で一緒にお茶を飲んでいただくことを勧めている。苦情受けのポストも設置している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月「相談会」という職員会議を開催し、話し合う場としている。法人からの伝達事項や利用者のモニタリングなど内容が盛りだくさんで、職員の意見が十分に言えないこともあるが、そのような時は、後日管理者に意見を伝えている。職員の意見や要望は、具体的にホームの運営に取り入れられている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、離職者はほとんどいない。法人内部の異動は最小限となるよう努めている。やむを得ず異動がある場合は利用者にきちんと挨拶し、異動した職員はその後時々ホームを訪問している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人全体の感染症対策、防災、事故防止マニュアルなどが整備され、必要に応じて見直しをしている。マニュアルは職員がいつでも閲覧できる状態になっている。ノロウィルスの発生時期には、感染症対策マニュアルに沿った実践や研修が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修会や法人の内部研修に参加している。職員全員が何らかの研修が受けられるよう可能な限り勤務を調整したり、休日を利用して研修に参加している。参加した職員は、職員会議等で他の職員に内容を伝達している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	魚沼・十日町地域のグループホームの集いに参加している。テーマに沿った勉強会と意見交換が行われている。職員同士の交流が大切との考え方から、管理者だけでなく、ほとんどの職員が参加している。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の食事会を計画し、職場以外で何でも言い合える場を作り、ストレス軽減に努めている。建物の構造上、職員休憩室を設けることができないが、昼食後は利用者と一緒に横になって休むなど、管理者は職員が体を休められるよう配慮している。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは入居するまでの準備の時間が利用者にとって大切であると考えている。入居前には、在宅の担当介護支援専門員と情報交換し、また、本人と家族からホームに来てもらって一緒に食事するなどしてから入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくりや山菜の下ごしらえなど、利用者の経験や得意なことを職員が教えてもらいながら行っている。職員は利用者に対し、介護するというより、一緒に生活するという意識を持って接している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とはできるだけ直接コミュニケーションをとるようにしており、利用者の情報を共有するよう努めている。心身機能の低下した利用者の希望をかなえるため、家族の協力を得て、一時帰宅を支援している。その結果、利用者の生きる意欲が高まり、翌年家族とともに自宅の桜を見に行くことができた例もある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での利用者の言葉や表情から、希望や意向を把握するよう努めている。毎月のカンファレンスで職員間で情報を共有している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のかかわりの中で利用者一人一人の生活歴や過去の経験等の情報を収集するとともに、家族や面会に来られる親戚に聞くなどして把握に努めている。現在、アセスメント様式としてMDS方式を使用しているが、センター方式についても勉強を始め、活用を検討しているところである。		センター方式のアセスメントについて研修会に参加したり、勉強会を計画するなどして理解を深め、アセスメントがより利用者一人ひとりの理解に活かされることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の自宅に向いて家族と話し合う機会を持ったり、法人内の医療関係機関との連携をとりながら、チームで介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで介護計画のモニタリングを行ない、状態が変わったときは介護計画を変更し、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、面会や外出、外泊などに対応している。また、利用者の医療面について、歯科等も含めて往診を受けられる体制や看護師による健康管理など、法人の診療所や訪問看護事業所と連携して支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域で在宅医療を担ってきた法人であり、法人内の診療所や訪問看護事業所と連携して利用者の医療面を支援している。法人の診療所の医師が主治医となっており、必要などときはすぐ連絡が取れ、また、緊急時も往診してもらえる体制がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期についても話し合いがされており、法人の医療機関と連携して看取りケアも行なっている。平成19年度は、家族会で医師から看取りについての講演をしてもらい、ホームと家族とで考え方を共有している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声かけや対応はしていない。職員会議では随時、守秘義務について申し合わせをして、職員間で共有している。また、記録などの個人情報は保管庫で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「天気がいいから出かけたがたい」など、その日・その時の利用者の声にできるだけ応えて、ドライブや外出などに対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、近所から野菜や山菜などをもらって、利用者の希望を聞いて柔軟に変更している。利用者も、職員と一緒に下ごしらえや調理を楽しんでいた。食事介助が必要な方が複数おられることもあり、職員と一緒に食事していない。		一緒につくった料理を利用者と職員が同じテーブルで味わうことで、話題の広がりやより親密な関係性が期待できると考えられる。食事介助など職員配置の関係もあり、難しい面もあるが、一緒に食事することの意義についても再度検討し、取り組みを期待したい。
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを職員間で共有し、利用者のしぐさやにおい等で察知し、さりげなくトイレ誘導やおむつ交換をしている。		1階のトイレの入り口はドアではなくカーテンであるが、利用者のプライバシー保護等の観点から、再考をお願いしたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望により、入りたいときに入浴できるようにしている。入浴拒否のある方には、時間をおいて声かけしたり、伝え方を工夫して、自分から入りたいという気持ちになってもらえるように働きかけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域のイベント情報を収集し、利用者が希望するものに参加してもらっている。平成19年度は、大河ドラマ「天地人」の著者の講演会に参加したり、歌舞伎を見に行き、とても喜ばれた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のなかには、自由に散歩される方もおられる。希望があれば、全員でお昼をもって外出することもあり、日常的に外出の支援が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について話題にし、具体的な行為についての資料を配布するなどして理解を深めている。法人や関係機関の研修会にも参加しており、参加した職員は他の職員に伝達講習をしている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯のため以外は、玄関に鍵はかけていない。職員が1階にいることができないときのみ玄関のセンサースイッチをいれるが、普段は職員間の見守りで対応している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット等があった場合は、法人共通の報告書様式に内容と主な原因や改善策を記載し、職員間で共有している。		更なる事故防止に繋がられるよう、改善策が再発防止に繋がっているかどうか、期間を決めて検証・評価を行うことを期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が行う救急法の研修会に参加している。また、緊急時は、診療所へ連絡するとすぐに対応してもらうことができる。職員一人ひとりは、緊急時は「落ち着いて行動する」ことを心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	隣接する同一法人内の通所施設と協働し、年2回の避難訓練を実施している。また、非常食や懐中電灯、防寒のためのストーブや灯油を常備している。運営推進会議の際には近隣の方々に協力を呼びかけており、災害時には、まず最初に職員は外に向かって大声で助けを呼ぶことにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方にはチェック表を用いて確認しながら、利用者の食事・水分量を概ね把握している。献立は法人の管理栄養士がたてているが、本人の好きなものを取り入れて、必要な食事量を確保するなど工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家であった建物のため、ホーム全体が家庭的で落ち着いた雰囲気である。食器棚や置物なども昔ながらの馴染みの雰囲気のものである。テーブルには季節の花が生けられ、壁には外出時の写真や利用者が描かれた絵が額に入れて飾られており、居心地のよい空間をつくっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家であった建物であり、居室も利用者にとって馴染みの雰囲気である。使い慣れた筆筒をおいたり、ひ孫の写真を飾ったりして、利用者一人ひとりが自分の部屋として自由に使っている。畳の部屋に縁側がついている部屋が多く、洗濯物を干すなどして使っている。		